

1995年4月1日から2015年5月31日までマイコプラズマ肺炎で気管支内視鏡検査を受けた患者さんへ

研究課題名：マイコプラズマ肺炎の病理組織像の検討

マイコプラズマは市中肺炎の原因菌として頻度の高い微生物です。本菌による肺炎は比較的軽症であることが多いのですが、数%で致命的な経過をたどることが知られており、その報告が増えています。さらにマイコプラズマ感染症の大きな問題点は、薬剤耐性株が増加していることで、治療不成功例が増えています。このため私たちは、マイコプラズマ肺炎に対する新たな治療法を模索する研究を行っています。我々の研究結果から、マイコプラズマ肺炎に対してステロイドが有効であると判明していますが、その機序が分かっておらず、ステロイドを積極的に推奨できない状態にあります。

当教室では川崎医科大学・同附属病院倫理委員会の承認を得て、1995年4月1日から2015年5月31日の間にマイコプラズマ肺炎で入院し、気管支内視鏡検査が施行された患者さんを対象とします。マイコプラズマ肺炎におけるステロイドの有効性の機序を明らかとするため、気管支内視鏡検査で得られた病理組織像を解析します。本研究の成果として治療に難渋するマイコプラズマ肺炎の新たな治療法が明らかとなり、患者さんに対する適切な治療法が実施可能になります。

本研究は観察研究であり、既存資料のみを用いた研究であるため、新たな人体資料の採取は行いません。また、個人が直接同定されうる情報は収集いたしません。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。この研究では主任研究者の教員研究費のみを使用いたします。総合内科学1教室は大正富山医薬品株式会社、第一三共株式会社、日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社、武田薬品工業株式会社、アステラス製薬株式会社から、呼吸器内科教室は第一三共株式会社、協和発酵キリン株式会社、日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社、中外製薬株式会社、アステラス製薬株式会社、アストラゼネカ株式会社、大鵬薬品工業株式会社、MSD株式会社、Meiji Seika ファルマ株式会社から年間50万円以上の奨学寄付金を受け取っていますが、利益相反委員会に申告を行い適正に管理されています。尚、上記企業は本研究とは関係ない企業です。

本研究への不参加や、参加取りやめを希望される方または、何か不明なことがありましたら、実施責任者である下記までご連絡くださいますようお願いいたします。

[問い合わせ先] 総合内科学1 准教授 宮下修行

電子メール：nao@med.kawasaki-m.ac.jp

電話 086-225-2111(内線8006)